

平成 29 年度（第 139 期）事業報告

（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

公益社団法人東京地学協会

I. 事業方針

地学を奨励し、地学における専門分野の連携を図り、もって総合的な地学の進歩普及を推進する。

II. 事業内容

1. 公益事業

(1) 普及・啓発事業（定款第 4 条第 1 号）

① 講演会の開催

i) 春季講演会「ネパールー自然の魅力と人々の暮らしー」

日時：平成 29 年 6 月 10 日（土）13：15 ～ 17：00（参加者 53 名）

場所：東京グリーンパレス

「なんでネパールなの？」 小林裕明（海外在留ネパール人会日本支部名誉会員）

「ヒマラヤ山脈の成り立ち」 酒井治孝（京都大学）

「ネパール・ヒマラヤにおける近年の氷河変動と氷河にまつわる話題」

朝日克彦（伊豆半島ジオパーク事務局）

「2015 年ネパール・ゴルカ地震による被害と復興の現状」

プラダン・オム（応用地質株式会社）

ii) 秋季講演会「ジオツーリズムーその発展と課題ー」

日時：平成 29 年 11 月 25 日（土）13：15 ～ 16：55（参加者 25 名）

場所：弘済会館

「ジオツーリズムの現状と今後の展望」 目代邦康（日本ジオサービス株式会社）

「地球科学の専門家によるジオツアーの実践」 大岩根 尚（合同会社むすひ）

「お菓子な景色で大地を楽しもう！ーお土産型体験ツールで広がるジオツーリズムー」 鈴木美智子（ジオ菓子旅行団）

「学術研究サイドとジオパークとの橋渡しとしての「伊豆半島南部のジオガイド」

狩野謙一（静岡大）

「『屋久島ジオガイド』から世界遺産屋久島の『ジオ』を発信する」

島津 弘（立正大学）

iii) 地学クラブ講演会

場所：第 303 回以外は東京地学協会講堂、第 303 回はアルカディア市ヶ谷

第 301 回 平成 29 年 7 月 21 日（金）15：00 ～ 16：00（参加者 19 名）

「宝永噴火後 300 年の富士山」

高田亮（産業技術総合研究所）

第 302 回 平成 29 年 9 月 22 日（金）14：00～ 15：00（参加者 20 名）

「ノルデンショルドー一行の世界史的偉業と東京地学協会創立時の国際的文化行事」
西川 治（東京大学名誉教授）

第 303 回 平成 29 年 12 月 15 日（金）14：30 ～ 16：45（参加者 21 名）

「トンレサップ湖の拡大が洪水特性および微地形の形成に与える影響に関する研究」
南雲直子（土木研究所）

「甌島列島における白亜系を含む東アジア東岸の白亜紀後期の海生動物相の復元」
三宅優佳（薩摩川内市甌はひとつ推進室）

第 304 回 平成 30 年 1 月 19 日（金）14:00～15:00（参加者 21 名）

「東北日本弧のマグマ供給系と地殻・マントル構造」 吉田武義（東北大学）

第 305 回 平成 30 年 3 月 16 日（金）14:00～15:00（参加者 11 名）

「東京都産のトウキョウホタテ標本を探る」 川辺文久（文部科学省）

② 見学会の開催

i) 海外見学旅行「英国ジオツアー」

平成 29 年 9 月 4 日（月）～9 月 11 日（土）8 日間（参加者 13 名）

案内者 八島邦夫（日本水路協会）

矢島道子（日本大学文理学部非常勤講師）

ii) 国内見学旅行「国会議事堂と江戸城の石材を見に行こう」

平成 30 年 2 月 25 日（日）1 日間（参加者 29 名）

案内者 青木正博（産業技術総合研究所）

中澤 努（産業技術総合研究所）

久保純子（早稲田大学）

三橋浩志（文部科学省）

③ 広報活動

i) 日本地球惑星科学連合大会（平成 29 年 5 月 20 日～5 月 25 日）において展示ブースを設け、協会の重点事業を紹介するパネルと出版物を展示するとともにフライヤー 3 種及びリーフレット 2 種を配布した。

ii) 会員有志や関連学協会を対象にメールニュースを発行した。

iii) 協会ウェブサイトにて、行事、専門家紹介、助成の案内、報告などを掲載するとともにウェブ図書室の充実を図った。

④ 日本地学史の編纂

戦後の地学史のうち「研究の成果（個別分野の調査研究）」として地震学について、原稿を取りまとめ、会員等から意見、助言を求めるため、地学雑誌に掲載した。

⑤ 図書室の整備

受け入れ雑誌管理方針に従い受け入れ雑誌を整理した。2件の図書閲覧依頼があり、適切に対応した。

また、東京地学協会の過去の出版物や受託研究報告書等をデジタル化し、協会ウェブサイト（ウェブ図書室等）に公開した。

⑥ 専門家紹介（ジオエキスパート制度）

以下の内容の11件の専門家紹介依頼があり、それぞれ適切に対応した。

- i) 中国西安近郊の張掖丹霞地貌 張掖丹霞国家地質公園にある虹色に輝く『七彩山』についての解説者
- ii) 方位磁石や道具を使わずに方角を知る方法についての解説者
- iii) 高知県横浪半島の地質とくに崖錘層と風化岩についての解説者
- iv) 島根県浜田市の石見畳ヶ浦のように化石、断層、ノジュール、侵食崖、波食棚など多くの地学現象を一個所で見られるところ、フナクイムシの巣穴の化石が見られるところについての解説者
- v) 滝が出来るメカニズムや滝がある場所の特徴、滝の分類や形状など、滝に関する学術的な話をする専門家
- vi) 市民講座『日本石巡礼』または『黒部峡谷の自然史』についての講師
- vii) ブラジルの地質の特徴、とくに穴を掘りやすいか、に詳しい専門家
- viii) クルーズ客船において、西之島に関する講演の講師
- ix) 伊能忠敬の日本地図の意味・意義や伊能の江戸府内図について助言するとともに関心をもっている研究者を紹介できる専門家
- x) 低山の地形や地質に詳しい専門家
- xi) トルコの井戸の構造と井戸周辺の地盤の状態に詳しい専門家

また、専門家紹介を迅速に進めるため、紹介の対象になる人材のデータベースを維持管理した。

⑦ 関連団体との協力の推進

- i) 日本地球惑星科学連合、自然史学会連合及び地理学連携機構との連携を進めたほか、国際地理オリオンピック、国際地学オリンピック、GIS day in 東京 2017、日本地質学会愛媛大会巡検への協賛、後援または寄付を行った。
- ii) 第29回国際地図学会議組織委員会に、委員1名を派遣するとともに寄付を行った。
- iii) 地球惑星科学連合2017年大会において「ジオハザードセッション」を共催した。

(2) 出版・頒布事業（定款第4条第2号）

① 地学雑誌の発行・頒布

会員の研究成果の発表を主目的とした通常号 2 冊と最新の話題や成果を集めた特集号 4 冊、全 791 ページ（第 126 巻第 2 号から第 127 巻第 1 号まで）を発行した。

- i) 第 126 巻第 2 号 特集号：沈み込む海洋プレート科学の最前線—アウターライズ海洋掘削に向けて— p.105-262 11 論文（特集号 Overview 及び巻頭言を含む。）及び地学ニュース（N25-N38）
- ii) 第 126 巻第 3 号 特集号：風化—ナノスケールからグローバルスケールまで— 1. 微視的風化と基礎研究 p.263-405 9 論文（特集号 Overview 及び巻頭言を含む。）及び地学ニュース（N39-N50）
- iii) 第 126 巻第 4 号 特集号：風化—ナノスケールからグローバルスケールまで— 2. p407-531 9 論文（特集号 Overview 及び序説を含む。）及び地学ニュース（N51-N75）
- iv) 第 126 巻第 5 号 通常号 p.533-664 7 論文及び地学ニュース（N77-N89）
- v) 第 126 巻第 6 号 小特集号：地球科学からみた利根川下流域の液状化—発生場の地学的・地史的特徴— p.665-794 9 論文（特集号 Overview を含む。）及び地学ニュース（N91-N109）
- vi) 第 127 第 1 号 通常号 p.1-101 5 論文及び地学ニュース（N1-17）

なお、第 126 巻 1 号から、地学雑誌を全ページカラー印刷とし、「口絵」を廃止するとともに、カラー印刷の著者負担金を無料とし、別刷り料金を多くの場合これまでより安くなるよう改定している。

また、本誌発行と同時に電子版をオンラインジャーナル（J-STAGE）として公開し、地学協会ホームページからもアクセスできるようにしている。

これらの企画・編集のための委員会を特集号に関するものを含め 11 回開催した。

② 地質図幅等の頒布

独立行政法人産業技術総合研究所との間で平成 27 年 3 月 23 日に結ばれた「地球科学図・地球科学データ集の有料頒布に関する業務」についての委託契約に基づき、同研究所地質調査総合センター発行の地球科学図及び地球科学データ集等 784 種の出版物を委託販売による頒布対象とした。なお、平成 23 年 9 月からは海外からの購入希望にも応じている。今年度の頒布実績は、350 種、951 部、払出額にして約 154 万円であった。

(3) 研究等助成・表彰事業（定款第 4 条第 3 号）

① 研究等助成

1) 平成 29 年度調査・研究助成は以下の 4 件を採択した。

小松俊文（熊本大学） 北ベトナムメオバック地域に分布する上部デボン系の黒色頁岩と地質年代

七山 太（産業技術総合研究所） 上総層群指標テフラの供給源と年代の再検討
高津翔平（筑波大学） タイ国東北部の足跡産地 Huai Dam Chum から 産する恐竜足跡化石群の分類学的記載～印跡動物“オルニトミモサウルス類”の可能

性を探る～

佐野晋一（福井県立恐竜博物館） ミャンマー東北部の浅海成石灰岩から解明する白亜紀中頃の礁性生物の進化史

2) 平成 29 年度の国際研究集会助成は以下の 3 件を採択した。

松岡 篤（新潟大学） 第 15 回国際放散虫研究集会

石川 守（北海道大学） 第 2 回アジア永久凍土会議

海保邦夫（東北大学） IGCP630 年会シンポジウム（2017）「ペルム紀－三畳紀気候環境極端事件と生物の応答」

② 普及・啓発活動助成

平成 29 年 3 月 31 日を締切として普及・啓発活動助成の募集を行ったが、期日までに応募がなかった。

③ 表彰

東京地学協会メダルおよび東京地学協会地学普及功労賞を授与するため、候補者を常時募集しているが、平成 29 年度は、表彰要領に基づき表彰候補者推薦人を選定して推薦を依頼し、その結果を表彰者選考委員会で審査し、2 名に東京地学協会メダルを贈呈することとした。

(4) 伊能忠敬没後 200 年記念事業（定款第 4 条第 1～3 号）

①伊能忠敬没後 200 年の記念事業を実施するため特別委員会「伊能忠敬没後 200 年記念事業構想委員会」を引き続き設置し、海外見学旅行、専門家紹介を実施するとともに、パンフレットの作成頒布、国内見学旅行、公開講演会、展示会、地学雑誌特集号の編集等に取り組んだ。

②本事業は、(1) 普及・啓発事業、(2) 出版・頒布事業及び(3) 研究等助成・表彰事業において行う事業の中で、伊能忠敬に関連する場合に、記念事業であることを明記することによって実施した。

2. 収益事業（定款第 5 条）

地学会館ビルの一部賃貸・会館の保全管理事業：引続き地学会館ビルの一部を賃貸するとともに、必要に応じた改修を行った。東京地学協会の公益事業を安定的かつ継続的に行うため、収益事業等会計から公益目的事業会計に資金的支援を行った。

平成 29 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」がないので作成しない。